

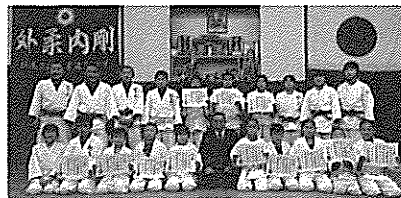
### 松尾公民館柔道クラブ

#### 絆で繋がる柔道クラブ

保護者会長 熊谷 敢

当クラブは、毎週火・金曜日の19時から、自治振興センター隣の道場で元気のいい練習に励んでいます。クラブには、保育園の年長から小学生、そして練習には緑ヶ丘中学校の柔道部員や、時には高校生や大人のOBの皆さんも参加してくださり、いつも活気のある声が道場の内外に響いています。

上級生が下級生の面倒を見るというのが、長年の伝統となっています。練習の時は、上級生が下級生に技を教え、道着が乱れていたら整えてあげる。試合の時は、上級生が下級生とペアになり、下級生の試合が、いつどの会場で行くかを迷わないように付き添います。そして下級生の時にもらったことを、今度は自分が上級生になった時、下級生にしてあげる。これは柔道の創始者である加納治五郎先生の「自他共栄」の精神にも沿うところです。このような伝統があるため、下級生は上級生に憧れ、年齢に関係なく結束が強く、みんながとても仲が良いのが特徴です。柔道を通して心や身体を鍛えるのはもちろんですが、年齢に関係なく強い絆で結ばれる、そんな仲間を「松尾公民館柔道クラブ」で作りたい。いつでも入会お待ちしております。



### 松尾相撲クラブ

#### 大人相撲の熱気が子どもを変える

クラブ指導者 清水 里香

相撲クラブに中学部と大人部が新設された。今までも大人や中学生が在籍して活躍していたが、相撲を中核として活動する中学生と、団体予選に出場し、指導者資格の取得までしてくれる大人が四人も現れた。

### クラブだより

きつい全体稽古を終えた後、中学生は大人を相手に熱い申し合い稽古を始める。技術的指導も入り大変に、ハイベルな稽古がバチバチと展開される。それを横目で見ていた、やる気のある小学生も「一緒にやりたい。」と参入。湯気と熱気が身体から上がる。中学生が土俵から下がると、今度は大人の稽古。一人一人、力のやりとりができる相撲を取る事が嬉しくて、負けても「もう一丁。」と、楽しんで相撲を取っている。見ているも楽しさや、ワクワク感が伝わってくる。こんな大人や先輩たちの姿が、子ども達に与えた影響は本当に大きい。真摯に子どもと相撲に向き合ってくれる仲間が出来て本当に嬉しくて有難い。

昨夏から、相撲クラブでは、週二回の稽古に加えて、有志で月曜日にトレーニング会を行っている。私の職場である「BSRリハビリテーションセンター」を利用して、週三回切磋琢磨しあっている。すごい事が始まっている。



### 松尾少年マレットゴルフクラブ

#### マレットゴルフの歴史と将来

代表 伊原 公彦

一九八六年、福井県で18ホールが作られたのがマレットゴルフの発祥とされています。しかし発展したのは長野県であり、現在県内には200をはるかに超えるコースがあります。飯田圏内にも松尾マレットゴルフ場をはじめ龍江、親水、運動公園、座光寺等の他、小さいものを入れると10箇所以上のコースがあり、マレット（マレットゴルフ）達が腕を磨いています。新聞で試合結果を目にした方もおられると思いますが、毎月それぞれのコースで試合が行われ競い合っています。ただ残念なのは、南信地域では、小中学生の子供の姿が少ないことです。

昨年十一月下旬に松尾小学校六年生133名が、課外活動の一環としてマレットゴルフを体験しました。後から非常に楽しかったとお聞きして嬉しく思いました。こうした活動を通して、高齢者と子ども達との交流から、相互に新たな気づきや発見が生まれ、また、新たな活動へと発展する可能性を秘めています。

将来は、若い人も高齢者も男女に関わりなく、皆で楽しめる大会ができればと願っています。是非松尾少年マレットゴルフクラブの門をたたいてみてください。



### 育成会事業貢献者への顕彰を

#### 青少年健全育成会 松澤 秀明

青少年健全育成会をお引き受けして六年がたちました。この間、各支部の役員の方々や多くの皆様にお支えいただき有難うございました。

平成十八年、新たな自治会組織「まちづくり委員会」が全市で始まり、松尾地区青少年健全育成会会則の基に、支部組織があり、総会を開催してきた経緯から、公民館育成部を設けてその中に公民館と育成会が並立する組織になっています。他地区のように公民館の一委員会組織にはなっておりません。この事は青少年の健全育成を如何に大事にして来ているかを現わしています。

松尾少年スポーツクラブは、現在の十のクラブが活動しており、指導者として多くの方が、長年ご自身の時間を費やして関わって来ていただいております。こうした皆様方の顕彰が、市の青少年健全育成会組織（大会）が廃止された事から、十三年間行われて来ておりません。昨年「松尾公民館剣道部」が創立五十周年を迎えたのを機会に、顕彰に向けて取り組んできましたが、新型コロナウイルスのために記念事業は全て中止となってしまいました。ただ、記念誌は発行されました。またコロナ禍ではありますが、何となくも、青少年健全育成事業に関わってこられた皆様方への顕彰を願ってやみません。

# 松尾育成会便り

第44号  
令和2年度  
松尾地区まちづくり委員会  
公民館育成部  
青少年健全育成会

## 出張科学実験教室開催される 松尾小学校五年生・六年生

今年度はコロナ禍で様々な行事が中止となってしまいましたが、おもしろ科学工房や松尾サイエンスの皆様のご協力をいただき、松尾小学校で出張科学実験教室を開催する事ができました。十一月五日には五年生が液体窒素を使った様々な実験をしたり、超電導体を使ってリニアモーターカーの原理を学びました。また、七月に開催予定となっていた、六年生のモデルロケットを作成して打ち上げる実験教室も、十一月十七日に開催することができました。

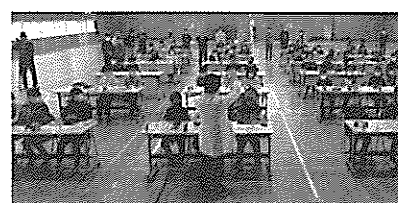
おもしろ科学工房 代表 三浦 宏子  
平成二十三年、松尾小学校・育成会・松尾サイエンス・おもしろ科学工房の協働で出張科学実験教室が始まりました。この事業は、国の推進するコミュニティスクールの先駆けでした。ロケット発射のスイッチを押す子どもの「キラキラ輝く瞳」。液体窒素で凍らせた花をバラバラにする「あつと驚いた顔」。先生方の歓声。サポートする大人たちの感動がそこにありました。十年続くこの活動は、「コロナ禍であっても、「松尾の子は松尾で育てる」という強い地域の思いと、例年通りの様々な事が出来なかったから、せめて「科学実験教室」は体験させてあげたいという先生方の熱い思いを受けて、無事開催することが出来ました。子どもたちはきつと、地域の方々の協力で体験した、「この感動を十年二十年経っても忘れないでしょう。」



五年一組 澤口 颯佳  
科学実験教室を体験して、科学や実験はおもしろい、楽しい、勉強になると思いました。液体チックス素はものすごく冷たいが、しゅん手を入れても凍らないということが分かりました。手を入れてみると、ふわっと綿に手を入れたような感じでした。その後床に液体チックス素をまくと、コロコロと転がっていき、ふむとホコリになりました。ダリアを液体チックス素に入れる実験をお手伝い

私たちが液体チックス素を初めて使って、新しい発見ができました。マシユマロを液体チックス素に入れるとカチコチになると分かった。他の食べ物を入れた時にどうなるか気になりました。私はちくわを入れてみました。これからは、本やテレビで科学について調べたいです。

きんちょうした科学実験教室  
六年四組 小島 優来  
良く飛ぶロケットを作るために説明をしっかりと聞きました。まっすぐ上へ飛ぶための工夫とか飛んでいるときに空気が入ってバラバラにならないように、たくさんテープをはったり、アドバンスをたくさん聞いたりしました。最後、ロケットの中に「ふ」をいれました。食べ物を入れることにビックリしました。地域の先生から宇宙についてのお話をしてもらい、「宇宙にある星は、地球の何倍も大きいんだなあ。」と思いました。ロケットに乗って宇宙に行く人の話が聞けて良かったです。ロケットを飛ばしに外へ行きました。みんなが飛ばしているロケットを見ると、とっても高く飛んでビックリしました。落ちてきたロケットをキャッチできた人にはく手をしました。いよいよ自分が飛ばす番になり、とてもきんちょうしました。自分がボタンを押してロケットを飛ばせることがうれしかったです。ボタンを押して、ロケットがきれいに飛んでパシユートがしっかりと開いてくれてうれしかったです。私は、ロケットを取りに走っていきなかつたので、代わりに友達を取りに行ってくれました。しっかりとキャッチしてくれてうれしかったです。とてもきんちょうしたけど、自分にとって最高の思い出になりました。



六年間で初めての経験

六年一組 横前 詩奈乃

最初は、そこまで楽しみにしていませんでした。でも体育館に入った時、色々な材料が並んでいて、「何をやるんだらう。」という感じでワクワクが止まりませんでした。

初めに作ったのが、どう体です。カレンダーの紙に両面テープで火薬をつけて、筒のようにしました。「ロケットは、空気圧などで飛ばすのかな？」と思っていましたが、火薬で飛ばすなんてすごく本格的だなと思いました。次に、ノーズコーンを作りまして、自分たちで作ったパラシュートにつなぎました。羽も付けました。一つでもまちがえてたらどうしようと思う気持ちも強くなり、しん重にやりました。最後に打ち上げをしました。自分のロケットが発射する前、ドキドキしましたが、高く上がりました。左と右にロケットがあったので、どちらか迷いました。スタッフの人が「左左。」と言ってくれたので、キャッチすることができました。六年間の小学校生活の中で、このような経験ができてよかったです。

ロケットづくり

六年二組 蟹原 世歌

ロケットのしくみや、くみ立て方をくわしく教えてもらいました。私は、どちらかというと、くみ立てや物をつくるのが苦手なのですが、友だちや近くに来てくれた人たちが教えてくれてとても助かりました。もとパラシュートを作った準備は

していたものの、なんとか二時間で終わって安心しました。自分の作ったロケットや友達のものも飛んでいるのを見てみると、飛行機雲のようにそのロケットが飛んだところにあとが付いていることや、しっかりとパラシュートが開いて、下に落ちてくる落ち方が一つ一つちがうことなど、いろいろな気が付くことができました。

友達とのロケット打ち上げ

六年三組 西尾 奈々

理科実験で毎年六年生がやっているロケットを作りました。コロナのえいきょうでやれないと思いましたが、でも広い体育館で三人一組で約二時間で作りました。そして打ち上げ。どんな感じでやるのかなと思っていました。まず一列目の六人がセットして打ち上げて、走って取れたらラッキーということでした。私たちのセットをしてカウントダウン。五、四、三、二、一、スイッチオン。とっても高く上がりました。そして全力ダッシュ、ここだっ！と決めた位置で後は待つ。見事キャッチできました。走っている中、「がんばれ。」と大声で言ってくれました。友達もみんなを全力で応援しました。友達のことをすごく思えた一日でした。楽しくって最高の一日になりました。

人と人をつなぐ思い

緑ヶ丘中学校長 平澤 和広



誰も経験したことがない未曾有の事態。新型コロナウイルスにより、学校も社会も制限を余儀なくされた

一年であった。「学校という垣根を外し、地域に開かれた緑中でありたい。」そんな願いを、充分に具現化できない昨今の状況が悔しい。そんな状況下ではあったが、十一月に「結い未来プロジェクト」として、地域講師の方々に来校いただき、仕事を通した「生き方」を語っていただいた。そのなかで、ある一人の講師の方がこんな言葉を生徒に話してくれた。「今は、やりたいことや夢がなくても大丈夫。私だってそれを持つのに十年もかかったんだから。」

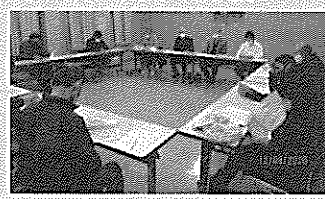
今、世界は混沌としており、夢や希望を語りにくい現状であるかもしれない。しかし、その心を前向きに変えていく原動力は、「心のつながり」だと思う。ある三年生が、一年を振り返って記した文章のなかで、こんな言葉を述べている。「こんな状況の中で、今までのような形が作れるのか？僕は委員長として、こんなマイナスイメージばかり抱いていました。しかし、マスクを着けて一生懸命練習する仲間姿を見て、負の考えから強い決意に変わりました。」コロナ禍により、学習もリモート化が進んでいる。しかし、人間の成長に不可欠なのは、「人と人をつなぐ思い」ではないだろうか。地域の皆様、温かいご声援とご支援、引き続き宜しくお願致します。

松尾のスポーツ文化を考える

松尾少年スポーツクラブ代表者会

十二月九日(水)に松尾少年スポーツクラブ代表者会が開催されました。今回は、松尾まちづくり委員会の宮沢直人会長に出席をいただき、「スポーツパークイデア構想」について説明をしていただき、意見交換を行いました。

肉の疲労回復に有効であること、この特徴を活かして宿泊施設を設けること。合宿者の大幅増を期待できる。中学生の部活動のあり方を考える時、全市型のスポーツが始まっているが課題がありスムーズな活動ができていない。令和五年から休日の練習については地域へ任せられる事もあり、地域として方策を考えていかなくてはならない。少年スポーツクラブに中学生を受け入れて欲しいと言われても、すぐには対応できない。各クラブへの支援を更に充実して欲しい、等の意見が出されましました。育成会長も出席している「学校施設開放委員会」でも子ども達のスポーツをどのようにしていくか熱心に話し合われています。今やスポーツは地域づくりであり、健康増進に欠くことのできない要素であります。地域全体でスポーツ文化のあり方を考える組織を創設して考えていくことが求められています。



令和2年度松尾小学校あいさつ標語 代表作品発表

松尾地区青少年健全育成会では、あいさつの大切さと素晴らしい心を、地域の皆様に知っていただきたいと、毎年松尾小学校の全校児童の皆さんに「あいさつ標語」を作ってもらっています。各クラスの代表作品を紹介します。この標語はクリアファイルにして、全校児童の皆さんにお届けしました。また、自治振興センター窓口にも置いてありますのでご利用ください。

- 一年一組 熊谷 心琴 あいさつは みんなとつながる ひつさつわざ
- 二組 木下 裕貴 おはようが つつこにいくと わくわくする
- 三組 田中 葵衣 あいさつは とてもうれしい あいさつは
- 四組 服部 彩乃 おはよう ありがとう いいきもち
- 二年一組 磯石 心結 自分からあいさつ わたしも みんなも いい気もち
- 二組 森 一馬 大きな声で おはよう 頑張って
- 三組 石田 結人 きみのあいさつ みんながえがお
- 四組 佐々木 慧人 あいさつで えがおがいっぱい なかよしいっぱい
- 三年一組 平林 慧 友だちと 元気になれる あいさつ団
- 二組 山菅 萌未 あいさつで 心がとる 一日を
- 三組 秋元 心緒 おはようは 人のこころを あたためる
- 四組 鋤柄 一太 あいさつは みんなをげんきにすん いいことば
- 四年一組 村山 航晴 あいさつは 元気にさせる おまじない
- 二組 永井 大智 ありがとう その一言で えがおになる
- 三組 上野 遥翔 みんなでキラキラ あいさつをして 気持ちをよくしよう
- 四組 小島 啓太郎 あいさつの良さを知っているのは
- 五年一組 仁木 希歩 あいさつで みんなにえがお おくろうね
- 二組 大川 紗穂 あいさつし マスクごしても 「二」に
- 三組 アザル 秀吉 おはようございます 一日のとびらをひらく 心もハッピー
- 六年一組 杉山 周優 あいさつは 元気になれる おまじない
- 二組 若林 来瞳 朝おきて みんなに送ろう おはようを！
- 三組 秋田 千尋 おはようは みんなの笑顔 つくる道
- 四組 原 悠一郎 おはようあいさつ 姿で見せよう にっこり

あすなる農園と地域の子供たち

あすなる農園 木下 克彦

「あすなる農園」は十二年前、寺所の気の合う仲間が集まり、「遊休農地の活用方法」を話し合う中で「今の子供は芋が土の中にできることを知らん。苗の植え付けから収穫まで、一連の作業を体験させまいか。」の一言で「遊休農地の利用」と「子供に農業を体験させる」事がコラボし誕生しました。寺所の小学生を始めとして近くの松尾東保育園児やひまわり学園児、そして最近

小学生のための笛の吹き方教室

代田獅子囃子保存会長 後藤 功平

のみなさんに、「稚児舞」だけでなく獅子舞の踊り手や、お囃子の演奏者として入っていただき伝統芸能と一緒に楽しんでいきたいと願って「小学生のための笛の吹き方教室」を二昨年から始めました。現在十三名の小学生の皆さんが参加していただいています。

地域の子供にも関わる自主的な活動

「ムトス飯田助成事業」の支援をいただき、子ども用の「股引・腹掛け・ジャンパー」を購入しました。昨春春の下宮春季例大祭でのデビューを楽しみにしていましたが、コロナウイルスのため延期となってしまいました。

現在も大変厳しい状況にありますが、保護者の皆様のご理解をいただき、感染予防策を講じた上で、夏休み、冬休みに練習を行ってきました。お囃子二曲が吹けるようになりまして、延期されていた春春季例大祭では是非披露したいと願っています。

